第3回美里町総合教育会議会議録

日 時 令和7年2月10日（月曜日）午前10時30分開議

場 所 南郷庁舎 202会議室

会議構成員

町 長	相 澤 清 一
教育委員会教育長	大 友 義 孝
教育委員会教育長職務代理者	留 守 広 行
教育委員会委員	佐 藤 キ ヨ
教育委員会委員	大 森 真智子
教育委員会委員	佐々木 忠 夫

美里町総合教育会議事務局

総 務 課 長	佐 野 仁
総務課秘書室主事	今 野 宗 睦

意見聴取者

教育委員会事務局長	佐 藤 功太郎
兼学校教育環境整備室長	
教育委員会教育総務課長	齋 藤 寿

会議傍聴者 0人（公開）

議事日程

第1 開 会

第2 挨 拶

第3 協 議

（1）美里中学校を中心とした生涯を通して学び楽しむまちづくりプロジェクト（案）
について

第4 その他

第5 閉 会

午前10時30分 開会

日程第1 開会

○総務課長（佐野仁） 定刻となりましたので、ただいまから令和6年度第3回美里町総合教育会議を開催させていただきます。

日程第2 挨拶

○総務課長（佐野仁） 開会に当たりまして、相澤町長より御挨拶申し上げます。

○町長（相澤清一） 皆さん、おはようございます。

今日は第3回の美里町総合教育会議ということで、大変お忙しい中、御出席を賜り、感謝を申し上げます。

また、教育委員会の皆様におきましては、美里町の教育行政に関しましても、いろんな形で御指導、御協力をいただいておりますことに改めて感謝を申し上げます。

今年一番の寒波でございますけれども、南郷に来たらあまり雪はないなど、小牛田と南郷では大分違うなどそのように感じて、今、車で参りました。そういうふうな大変な中でございませけれども、今日は教育会議を開催させていただきたいと思えます。

まず初めに、佐藤キヨ委員には、4年間教育委員会として御尽力、御協力いただきましたことに改めて感謝を申し上げます。この4年間は初めての統合中学校ということで、いろんな住民の関心もあり、非常に大きな課題もありましたけれども、ここまで来れたのはやはりキヨ委員のおかげでもあったなあと、そのように思うところでございます。

そのような今までのこの中学校の建設に関しましても、教育委員会の皆様方の御指導をいただきまして、今年の4月やっと開校の運びとなりました。これまで教育委員会がいろいろ協議を重ねてきてから、はや10年あまりということでございます。

いろんなところでお話を聞きますと、蔵王では今、統合に向けて進めておりますけれども、美里町で動き出す5年ぐらい前から統合に向けて話し合ったんですけれども、なかなか進まなかったということで、本町では後から始まったのですが、そういう意味では早く統合できましたことは、本当に町民はじめ教育委員会の皆様の御尽力だとそのように思っております。

今日は、協議事項1点でございます。美里中学校を中心とした生涯を通して学び楽しむまちづくりプロジェクト（案）ということでございます。

この中学校は、住民の方々も非常に興味を持っておりますし、関心を持っております。この中学校が町1つとなりましたので、いろんな面で地域活動なり、住民のそういうふうな思いも

一極に集中するような、そういうような形になるのかなとっております。

ですから、なおさらのこと、やはりこの中学校を核として、どのように地域の皆様と、また町民と、そして子供と一体となって、このすばらしい中学校をどう位置づけて、子供たちの将来のためにいろんな形でふるさとを、そういうふうな思いも培わせるような、そういうふうな中学校にしなければいけないとそのような形で思っております。

そういうふうな中で、これから4月から早速進むわけでございます。特徴としては、後からも説明ありますけれども、地域学校連携室や、コミュニティ・スクール、また、まちライブラリー、そして新たなプロジェクトマネジャーを設置する、そういうふうな形で今後進めていければ、非常にそういう意味では意味のある、意義のある、非常に住民の皆様からも御理解をいただき、そして住民参加のまちづくりの形ができるのかなと、そういうふうな思いでまず期待でいっぱいでございます。

そういうふうなところでございますので、ぜひ今日はいろんな御議論の中から、今後の美里中学校に向けて、皆さんの御意見などをいただきながら進めてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いを申し上げ、挨拶に代えさせていただきます。

○総務課長（佐野仁） 次に、本日の議事録署名人の選出について、事務局のほうからお諮りさせていただきます。

本日の会議における議事録の署名につきましては、留守委員と大森委員にお願いしたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○総務課長（佐野仁） ありがとうございます。

日程第3 協議事項

○総務課長（佐野仁） 次に、次第の3、協議に入りたいと思っております。

これからの進行につきましては、相澤町長を座長に進行させていただきます。

○町長（相澤清一） 早速、協議進めてまいりたいと思っております。

美里中学校を中心とした生涯を通して学び楽しむまちづくりプロジェクト（案）について、事務局から説明をお願いいたします。

○教育委員会事務局長（佐藤功太郎） 皆さん、大変お疲れさまでございます。

今日はパワーポイントを使って御説明をさせていただきたいと思っておりますので、画面のほうを御覧ください。

まず、資料につきましてはお読みいただいたということで進めさせていただきたいと思っております。このことにつきましては、令和6年1月の総合教育会議で協議調整をさせていただいた美里町新中学校の支援と学校を活用した学習についてということで、誰もが楽しめる学校を目指してということで、御協議、調整いただいて、それを令和6年2月に議会の全員協議会のほうで、御説明をしているというようなところでございます。

今回、美里中学校を中心とした生涯を通して学び楽しむまちづくりプロジェクト案を本日協議、調整いただいて、成案としていただきたいと思いますと思っております。

まず、私たちを取り巻く環境ということで、日本においては世界的にも類を見ない人口減少、超高齢化が進んでいるということでございまして、人口減少につきましては、2020年では1億2,615万人、これが2070年には8,700万人に減少していくと、約30%減少していくというようなところですね。

あとは、高齢化率につきましては28.6%、これが38.7%ということで、3人に1人というか、非常に高齢者が多くなっていくというような現状。

あとは、地球温暖化ですね、これは温室効果排出ガス等により、地球温暖化が進行していると、近年大分異常気象というところで変化が出ているところではないかなと思っております。

それで、このようなことから、自然災害が多発しているということでございまして、地震、大雨、最近ですと大雪ということで、日本海側は大分大変な状態であると思っておりますけれども、様々な災害による被害が発生しているというところでございます。

あとは、情報化、グローバル化ということで、インターネットの普及等によりまして、いろんな情報が瞬時にどこからでも入手できるような状況になってきているというところ。

あとは、最近ソフトバンクとオープンAIのお話等々もございましてけれども、AIの発達、発展ということで、今後このAIがさらなる進化を遂げて、いろんな不安もあり、期待もありというところで進んでいるようなところかなというふうに思っております。変化の激しい予測の難しい社会であるということであると。これが前提に、大きな前提になってくるのかなというところでございます。

美里町の現状といたしましては、美里町の人口減少ということで、総合計画策定時におきましては2万4,852人ということでございましたが、現時点で2万2,913人、もう既に8%減少、さらに、2040年には1万6,915人ということで、30%が減少になる。大分減少していくというようなところになっていくということで、さらに、高齢化につきましても見ていくと、総合計画策定時につきましては30.7%、これが現在ですと37.3%。将来2040年でございましてけれども、

41.2%ということで、大げさに言うと2人に1人が高齢者というような世の中になっていくというところがございます。

それで、総合計画では、将来人口を先ほど1万6,915人になるというお話ししましたが、これをいろんな施策を打つことによって、緩やかにしていくということで、将来人口を1万9,366人ということで、約20%の減少にとどめるようなことを目標にしているというところがございます。

これを達成するためには、転入超過、合計特殊出生率が1.8%、これを達成していくということで、合計特殊出生率につきましては、今もう本当に1を切るのではないかとというようなところも出てきておまして、非常にこの出生率を上げていくということは困難なことであるのかなあというところがございます。

美里町が先日消滅都市というんですかね、それから抜けたというようなお話がありましたけれども、あれにつきましては、若年女性人口、これを基準としておまして、それが少なければ消滅に向かうというような基準があつて、美里町はその基準をクリアしたので、消滅地方都市から脱却できた。その理由はちょっとよく私も分析していないので、分からないところがございますが、それなりの子供を産み育てることができる相応の女性が美里町にはまだいるというようなところなのかなというふうなところがございます。

美里町の課題ということで、総合計画で、主要課題、これ4点ほど設けておまして、まず1つ目が教育環境の充実と人材育成、2つ目が地域産業の発展と雇用の確保、3つ目が人口減少の抑制と高齢化社会への対応、4つ目が子育て環境の整備という4つでございます。

それで、ここの(1)の教育環境の充実と人材育成、まちづくりは人づくり、担い手育成というところで、今回プロジェクトを進めていきたいというふうに考えているところがございます。

それで、この教育環境の充実と人材育成に関する主な取組として、中学校の再編をこれまでずっと進めてきているというところがございます。

経緯につきましては、皆様御存じだとは思いますが、平成24年から美里町学校教育環境審議会を設置して、これでの審議を皮切りに取組が進められてきて、教育委員会が最終的には協議、視察、保護者住民との意見交換会、総合教育会議での協議、調整を経て、令和元年5月に町長に教育財産取得の申出を行いまして、このことに基づき町長が新中学校建設に着手して、令和7年4月に美里中学校として開校するめどが立っておりまして、今のところ順調に進んでいるというふうなところがございます。

それで、しからばこの中学校をどうしていくんだというところで、持続可能なまち、持続可能な中学校というようなところがございますが、まず、公民連携手法の1つでありますPFI手法により、整備を実施しているというところがございます。

これは、設計、施工、維持管理を包括的に発注して、15年間の維持管理も含めた形でパートナーとしてやっていただくというようなところございまして、受注者につきましては、この特別目的会社というものを設立して進めていくというところで、名称は宮城美里PFIパートナーズ株式会社というところがございます。

代表企業は、大和リース株式会社でございまして、大和リース株式会社につきましては、PPPとか、PFIの実績が非常に多くて、国土交通省のアドバイザー等々もやっていて、国内のトップランナーとしてこういう取組を担っているというところがございます。

町といたしましては、こういうようなノウハウのある民間企業の方も借りながら、教育環境と周辺環境の充実による移住・定住環境の整備を推進していきたいというふうに考えているところがございます。

先ほど言ったように、維持管理15年ということございまして、この15年間に単純に施設の維持管理だけを行うのではなくて、事業者が町の地域活性化に対する取組ですね、例えば跡地等の利活用、移住・定住策等々のアドバイスというところ、あとはもう一つが、自主提案業務というものをやっていただくことになっておりまして、先ほど町長におっしゃっていただきましたが、まちライブラリーという住民が憩える、立ち寄れるようなオープンスペースを学校に設置するというところを予定しております。これは事業者が行う。

あとは、みさと大学ということで、これ仮称でございますけれども、市民大学ですね、こういうものを進めていくと。

あとは、3つ目として、マルシェですね、子供たちなんかもトライできるような、参加できるようなマルシェを企画していく。

あとはスポーツの支援もしていきたいというようなことで、現在提案をいただいております、今後詳細につきましては、いろいろと調整をしながら進めていくというようなところがございます。

人口減少、超高齢化が進む中で、持続可能なまちづくりを進めるための重要な事業として、この中学校を捉えていくというようなところがございます。

町の持続がなければ中学校の持続はないというところがございますので、教育環境と周辺環境の充実、これによって移住・定住環境の整備を推進していくというようなところござい

す。

地域住民等による美里中学校の支援ということで、中学校が町内唯一の中学校ということになりますので、町全体で支えていく、いける体制の整備が必要ということでございます。

地域とともにある学校づくりを推進していくということで、取組内容につきましては、まずコミュニティ・スクール、学校運営協議会を設置するというところでございます。学校運営に地域住民等が参加する仕組みを導入する。

そして、地域学校協働活動の推進ということで、学校と地域住民が協働して生徒の学びを支援する取組を実施していくということでございまして、コミュニティ・スクールを核といたしまして、さらに学校を支援するような活動に参加している住民を増やしていきながら、しっかりと支援が行えるように進めていきたいというふうなところでございます。

そして、3つ目が生涯学び楽しめる学校ということで、生徒の学び支援に加えまして、住民自らが学んでいくということですね、活動していく。生涯学習活動を実施していくという形になっていけばよろしいかなと思っているところでございます。

これらのことを推進するために、地域学校連携室を設置するという運びでございます。ここに対応する職員を配置して、取組を推進していくというふうなところでございます。

その取組の内容につきましては、まず、コミュニティ・スクールの運営と地域学校協働活動の一体的な推進ということで、まだこれはやりながら進めていかざるを得ないのかなというふうに思っておりますが、ここに挙げたような取組を進めていくというふうなところでございます。

学校の支援と、住民の活動、それに資するような活動、あとは教員の働き方改革、負担軽減にもつながるようなところになっていくとよろしいのではないかなというふうに考えているところでございます。

あとは、地域住民の社会教育、生涯学習の支援ということで、社会教育と生涯学習、これにつきましては、社会教育につきましては教育委員会事務局、生涯学習につきましては町長部局というふうに我が町ではなっておりますけれども、これを密接に連携させながら、中学校を拠点に一体的に推進していく必要があるのではないかとこのところでございます。

施設につきましても、体育館、多目的ホール、校庭、みさと広場、テニスコートと、あとは将来的には特別教室等々も開放しながら、より充実した活動を進められるような形になっていけばよろしいかなというふうに思っているところでございます。

シームレスに学び合える環境、持続可能なまち、居続けたいまちの実現ということでござい

ます。

美里中学校につきましては、美里町唯一の中学校になると。これまでの中学校につきましては、生徒の学びの場であるというようなところでございますが、これからの中学校、美里中学校につきましては、みんなの学びの場になるとよろしいのかなというふうに思っているところでございます。

この取組につきましては、なかなか先をしっかりと見通して全てきっちり組み立てて進められるものではなく、やりながら、実際にいろんなことに取り組みながら進めていくと、そういう中でみんなで考えて、より楽しい学校、町の文化の拠点というか、中心になるような、生涯関わり続けられるような学校になるとよろしいのではないかと。

子供が大人になって、そこに住み続けたいとか、もしくは外に出てもいい経験だったなど、いつか戻りたいなど、支援をしたいなどか、そういうつながりをずっと持っていけるような、そして中学校が非常に活性化して、それが住民の移住・定住にもつながるというようなところで発展していけば、よろしいのではないかとというようなところでございます。

今後、具体的なことにつきましては、今後になります。まず学校に入り口をつくって、地域学校連携室が中心となって進めてまいるということで、その職員は非常に重要な役割を果たしていくということで、社会教育主事であったり、地域プロジェクトマネージャー、こういうものを配置して、しっかりといろんな多様な主体と連携をしながら、進めていくという形で考えておりますので、どうぞよろしくお願ひしたいというところでございます。

ちょっと長くなりましたが、私からの説明は以上でございます。よろしくお願ひいたします。

○町長（相澤清一） ただいま説明をいただきました。

1 番目の生涯を通して学び楽しみまちづくりプロジェクト（案）について、皆さんから御意見を賜りたいと思います。

何か皆さんから御意見ございませんか、忌憚のない御意見をいただきたいと思います。遠慮しないで何か聞きたい点、また、分からない点ありましたらお願ひしたいと思います。よろしいですか。どうぞ、留守委員。

○教育長職務代理者（留守広行） 学校、私の個人的な感覚なんです。子供を学校に通わせているときには、学校に遠慮なく何か行けるという気持ちで携わっていたんですが、子供たちが学校を卒業すると、何か小学校も中学校も遠く感じているという、存在は変わらないんですけども、関わりがもうないなあという思いで過ごしてまいりました。

こういうプロジェクト（案）があるということは、住民の方も学校に自分のキャリアも持つ

て関わるができるなという、そんな思いが出てくるんじゃないのかなと思います。

ですから、学校というものが遠くに感じられずに、本当に我がところにあるというふうに思っていただけではないのかなと思うのが、いい取組ではないかなと思っておりますし、この美里中学校が美里の中学校だけにかかわらずに、もう地域外のほうに、地域以外の方々に十分に発信して、地域外だけれども自分の子も今後ちょっと通わせたいなというふうになって、発展していけば、本当にいいのではないかなと思うその入り口じゃないかと思います。

取り留めのない内容ですが、私の考えであります。

○町長（相澤清一） 今留守委員さんが言われましたように、今まではなかなかそういうふうなところが、中学校でも小学校でもなかなか住民と一体としてこうなってきたという直接的な経緯がなかなかね、やっぱり学校と地域では一線を画して、そういうような形で生活もしてきたというのが事実だと思います。

これを、今回の中学校では抜本的に、ある面では全部ぐじゃぐじゃにしてやっていくというふうな感じで、これは県内でも恐らく初めての取組で、ですからさっきも申しましたように、非常にそういう面では、県内の首長さんたちもちろんですけども、いろいろと教育学、いろんな資料も集めているようです。

当然、大和リースなんかにも問合せがあって、どのように地域と一体となって進めていくのか、すぐ一朝一夕にはそれはできることではありませんので、少しずつ少しずつ進めていかなければいけないと思っておりますけれども、少子高齢化が進む中で、このような学校の取組というのは、私は非常に価値があるし、先駆的な取組だと思いますので、そういう面でみんなで地域住民の皆様にもどうそれを知らしめて、協力して、参画してもらえるかという部分は、非常に大事で、ハードルは当然高いとは思いますが、そういうことで考えているとしたら、留守委員さんと私たちも同じ考えでございますので、そういう意味ではまだまだ多分相当数の課題があると思いますので、それを一つ一つ計画的にしていかなければいけないのかなと、そういうふうに思います。

皆さんからまだいろんな多分御意見あると思いますので、よろしくお願いします。

あと、私から1点、これを住民の皆様と一緒に進めていくときに、やっぱり高齢者の方々の足の確保という問題もありますので、住民バスとの兼ね合いというかな、そういうふうなのを中学校に、スクールバスとの兼ね合いでもいいですが、そういうふうな足の確保というのがより求められるかもしれませんので、そういう面で学校と地域の住民バスとか、スクールバスを連携を取れたような形で、学校に足を向けさせるような手法も私は必要なのかなと、足

を運んでもらえるような、そういうようなところはどのように考えていますか。

○教育委員会事務局長（佐藤功太郎） その辺も重要な話だと思いますが、現在、その部分につきましては、まだ具体的にどういうことをやっていくというところをまず描いて、その対応をどうしていく、足の確保も含めて、今後検討していかなければならないかなと。

高齢者の健康増進とか、そういうことを学校でやってみるのもいいでしょうし、いろんなことが考えられると思いますので、その辺今後しっかり考えていきたいなと。

○町長（相澤清一） できれば、スクールバスの活用方法も踏まえて、何か新しいことに取り組めるかもしれませんので、そういうことはぜひ今後考えていただければ非常にいいのかなあとと思いますので、お願いします。

どうぞ皆さんから何か忌憚ない御意見、結構ですので。御意見がないようですか、いいですか。佐々木委員。どうぞ。

○委員（佐々木忠夫） 基本的に面白いなと僕は思います。

美里町の状況の中の一番最後のところに、転入超過というふうに書いてあるんですけども、転入超過ということは、どこかの町とかそういうところから入ってくるということで、そちらは減るということですので、それが基本的ですよ。そういう奪い合いの考え方になっちゃうのかなというふうな気がするので、ちょっと嫌かなというふうな気はしてはいるんですが。

というふうなところはちょっと気になったところではあるんですが、全体としてはいいかなというふうに思います。

やはりこういうふうにしていくことによって、多分、特に子供たちのことを考えるんですけども、自分たちが、自分たちも一緒に何かまちをつくっていくという考え、感覚が出てくるような気がするので、そういう点では、何ていうか、子供たちがまちづくりに参加するというふうなところ、これ民主主義の教育としてはすごく大事な教育の視点のような気がします。

そういう点では、最近ちょっと注目しているのがミニ・ミュンヘンという活動があるんですけども、ドイツのミュンヘンでスタートした活動で、子供たちが民主主義を学ぶというふうな、地域の中で学んでいくという活動があって、それが日本のいろんなところでも少しずつ広まりつつあるので、そういうふうなものも取り入れながら、これができたら面白いかなというふうに私は思いました。

○町長（相澤清一） ありがとうございます。どうぞ。佐藤委員さん。

○委員（佐藤キヨ） このコミュニティ・スクールとPFIというので、コミュニティ・スクールを設置とかで、そのコミュニティ・スクールの話合い、6回ぐらいあるんですけども、私、

全部出ているんですけども。

それは、教育委員会から誰か行ったほうがいいかなという思いがあるし、それで出ているんですけども、古川の講師の方とか、このPFIから頼まれてこれはやっているんですか。

○教育委員会事務局長（佐藤功太郎） 別に頼んでやっています。

○委員（佐藤キヨ） それで、PFIがこういういろいろなものを計画して、頼んでいただく15年何とかかんとかで、だから出ていて、PFIの役割があんまり私はよく分からなかったんですね。そこがちょっと1つ疑問です。

それから、コミュニティ・スクールということで美里中学校を町民みんなで盛り上げるということは、教職員の働き方改革とかいろいろありますけれども、学校サイド、教員側と、それから町民と、できる限り共通理解、そういうのが必要かなと思って、働き方改革で教員は忙しいから、出るのが大変なんだけれども、ちょっと違うけれども、この考え方は使えると思うんです。

例えば、私が今読んでいる本に、ドイツですごい環境に配慮したいろんな施策をやっています。中心街でも車を使わないで、車が走るときは時速10キロ以下にするとか、そういうのをやっている。自転車も増えているんだけど、何で増えたかという、それを最初に提案した少数の、本当に少数の人たちが提案し、始まって20年位経過したみたいなんだけれども、それを普及させるために、やっぱり便利さとかいろいろ考えるけれども、そういうのに対するお金よりかは人間の幸福を考えて、また、地球の未来を考えて、そういうのをなるべく減らさなきゃいけないとかいろいろ考えたみたいです。例えばそういう施設、巨大な施設を造るのにはお金がかかりますよね。それを減らして、自転車に乗る人にお金を少しあげる。また、相乗りすることで排気ガスが減るとかいろいろな点で地球に優しいし、また、相乗りをする人にもちよっとお金をあげるとかしている。

でも、そうした人にお金をあげても結局はトータルで地球には良いとか、施設とか、そういうのを造るお金や、将来まで考えると、そっちのほうが得なんだそうです。

それで、そういう考えが広まって行って、ドイツでは環境に対する意識とか、CO₂、排ガスなどが減っているそうなんだけれども、難しいけれども、美里のコミュニティ・スクールを活性化、それから生涯を通して学び楽しむまちとか、帰ってきたいまちとか、いろいろ考えると、例えばコミュニティ・スクールに参加できるような時間に、たまには夜じゃなくするとか、そういったものに出た先生には代休を少しやるとか、本当にそういう無理だけれども、そういうような発想でやらないとコミュニティ・スクールに出る人は決まっている。

だから、もっとうみんなが参加しやすい、それから、みさと大学もパレットおおさきとか、その地区でありますよね。古川管内とか、そういうので県でありますよね。それは年間2万円だか何か、結構お金がかかるみたいで、そこで地域リーダー、主に中高年の退職者の中から地域リーダーを育て、そういう仕組みもあると思うんだけど、みさと大学も本当に中学校にできたなら、そこでそれが活動できたなら、通わないで済むし、行く人が増える可能性はあると思うんですよね。

だから、こういうのを本当に参加しやすい、ちょっと餌でつるじゃないけれども、そういうのも加味しながら、本当に知恵を出し合ってやれば、すごくいいなと思うんですよね。

だから、新しい発想をなるべく取り入れて、それは皆さんなるべく意見を言ってもらうとか、会議とかも出やすい日にするとか、そういう方法を取ることで、子供たちの不登校も徐々に減ると思うし、いろんないいサイクル、いい循環が生まれると思うんですよね。

だから、これからもそういうふうにしてほしいです。それから中学生も公園で遊んでいる中学生、一、二年の子供に聞いたところ、子供たちもすごく楽しみにしています。中学校ができることを。4月がうんと楽しみだというふうな子供たちがたくさんいました。

ぜひともその気持ちはずっと継続するように、私たち大人が頑張らないといけないと思うし、町長さん、教育長さんには特に頑張っていたいただきたいなと思います。よろしくお願いします。

○町長（相澤清一） いろんな、佐藤委員から、いろんな興味ある話を聞きました。そして、いろんなこれからの町の期待なんかも御意見として、佐藤事務局長から何かその件についてありましたら。

○教育委員会事務局長（佐藤功太郎） まず、PFIとの関係というのがやっぱりまだはっきりしていないというか、役割分担をこれから考えていかなければならないんですが、結局PFI事業者で一応4つの取組を出されておりますので、その取組をどのような形でやっていくのかというところをしっかりとまず出していただいて、それに対して町としてもしっかりと連携していくと。

そして、先ほどお話ありましたけれども、参加しやすいような工夫をしながら、より多くの人の参加を得ながら、そちらの活動もやっていきたいというふうに考えているところでございます。

あとは、先ほどお話ありましたけれども、学校の先生方と住民の連携というんですかね。あと共通理解というお話もありましたけれども、そこを今回地域連携室を設けますので、先生方に地域とただやり取りしてくださいという話をしても、これはもう忙しい中で、これはでき

ないことですので、地域連携室の職員、配置した職員が、そこをつなぐというんですかね、そしてしっかりとそれぞれの要望、要求、そういうことを捉えながら、うまく対応していければというようなところで、非常にその部分が重要になってくるのかなあというところがございます。

それぞれの意見をしっかりと聞きながら、進めていければというようなところがございます。

あとは、新しい中学校では、環境教育をしっかりとやっていく必要があるのではないかと。教育委員会においてもいろいろ小学校での出前授業とか、省エネ、再エネの取組をやってきておりますので、中学校においても、これは住民とともに環境を考えるというような取組を進めていく必要があるのではないかなというふうに思っております、生徒たちだけに学んでもらうのではなくて、住民も一緒に、大人も一緒に学ぶと。

どういうことをやっていくんだということを考えながら、自分たちの行動変容が変わっていくような取組ができればよろしいのではないかなあと思っております、それがSDGsのESDのですね、その考え方にも合致した取組ということになりますので、そういうことを進めながら、ESDの発信拠点というんですか、拠点校ということで、ユネスコスクールという制度がございます、そのユネスコスクールに将来的に加盟しながら、そういう環境への取組、その他の取組を進めていければよろしいのではないかなというふうに思っているところでございます。

美里発信で、いろいろな取組をやって広く周知というか、していただくことによって、いろんな方から興味関心を持っていただきながら、いいまちとして、選ばれるまちといえますか、先ほど取り合いになるのはというお話もありましたけれども、現状でいきますと、どうしてもそういうところが出てきてしまうというんですかね、人口が増えないので。増える策は必要なんですけれども、これが増えない。

そういう中で、まちを持続させていくということになれば、その魅力を上げて、そしてほかから移住・定住していただいて、楽しく過ごしていただくというんですかね、いい生活をさせていただくというところにどうしてもなってしまう。

ただ、そこだけに目をやるのではなくて、やはりいろんなことをしっかりと頭に入れながら、総合的な行政を推進していく必要があるのではないかなというふうに思っているところでございます。

○町長（相澤清一） 1つ、佐藤キヨ委員の話聞いて、やっぱり人が集まって、子供たちと一

緒になって動くと、先生もそれに付随して、やっぱり先生も動くんですね。働き方改革なんかもあるし、住民とどこまでの距離感で一生懸命やったらいいか、それぞれ先生の個性もあるし、考え方もあるからその辺の調整というかな、一線を画すというふうなことも必要なんだろうと。

住民の方は、多分先生も一緒に、我々が一生懸命やっているんだから、先生も一緒に参画しなさいみたいに、やっぱりそういうふうを感じる人もいるから、その辺の縦割りというかな、一線を画すようなことも今後、すごく線を引く必要もあるし、一緒にやりたいという先生も当然、部活と同じで、そういうような先生もおりますので、先生の意向なんかも聞きながら、教育委員会として整理して進めていただければなど、私はそういうふうに思いますけれどもね。

日程第4 その他

○町長（相澤清一） いいですか。大森委員さん、いいですか。（「はい」の声あり）

じゃあよろしいですか、協議はこの程度にしてよろしいですか。（「はい」の声あり）

どうもありがとうございました。事務局にお返しします。

日程第5 閉会

○総務課長（佐野仁） 慎重なる協議、ありがとうございました。

それでは、以上で本日の会議を終了させていただきます。

皆様、大変お疲れさまございました。

午前11時15分 閉会

上記会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名いたします。

令和 年 月 日